



住所 〒547-0001 大阪市平野区加美北 7-4-10
連絡先 ☎ 06-6793-0577 ☎ 06-6793-4165
校長 飯尾 吉司 **開校** 昭和 47 年
URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751736>

教育目標

- 進んで学習する子を育てる
- よく考え協力する子を育てる
- 明るく心豊かな子を育てる

重点目標

一人一人が大切にされる学校づくりを推進する
 ～ 自分大好き! 友だち大好き! 先生大好き! 加美北っ子 ～

教育方針

めざす子ども像

- できるようになりたいと強く願い、チャレンジする子ども
- 思いやりをもち、自分のため、みんなのために行動できる子ども
- 自分の心と体を知り、よりよくなるために行動できる子ども

運営に関する計画

【概要】

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 児童一人一人が「自分は大切にされている」という実感をもち、自己有用感を高めていくことができるように、具体的な取組を推進していく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 基礎学力の徹底した定着をめざす。
 - ① 漢字・計算の徹底した定着
 - ② 教員の授業力の向上(主体的・対話的・深い学びの実現)
 - ③ 家庭学習習慣の確立
 - ④ 「運動の日常化を図り、児童の体力の向上を目指す」ができるように、具体的な取組を推進していく。

【中期目標】

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の学校生活アンケートにおいて「自分にはよいところがある」との質問に肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和4年度～7年度末の学力経年調査において、「国語の勉強が好きですか」と「算数の勉強が好きですか」との質問に肯定的な回答をする児童の割合を国語は毎年70%以上に、算数は毎年65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和4年度～令和7年度における ICT を活用した学習活動の回数を前年より増加させる。

本校の概略

本校は、令和4年度に創立50年を迎えました。開校当初より、700名ほどの児童数があり、昭和50年代後半には、1500名ほどの大規模校として歩んできましたが、昨今の少子化に伴い、現在は340名ほどで通常学級12学級、特別支援学級6学級となっています。

本校は「一人一人が大切にされる学校づくりをめざして」～自分大好き! 友だち大好き! 先生大好き! 加美北っ子～をテーマにし、教育目標「進んで学習する子、よく考え協力する子、明るく心豊かな子の育成」に教職員一同全力で取り組んでいます。

令和5年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	平均正答率(%)
54	44	

●結果と概要／

- 国語科では、平均正答率で大阪市平均を13%下回る結果となった。平均無解答率は、大阪市平均より2.9%多い結果となった。前年度同様に3領域すべてで大阪市平均を下回る結果となり、各領域で課題を抱えていることが明らかになった。児童質問紙の「言葉の特徴や使い方について目的に応じて、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりする」「感想や考えをもち、自分の考えを広げたりする」の質問に肯定的な回答をした児童が大阪市平均と比べて大きく下っており、国語科における「思考力・判断力・表現力」に大きな課題があることが明らかとなった。
- 算数科では、平均正答率で大阪市平均を18%下回る結果となった。特に「数と計算」領域については課題が大きい。平均無解答率は、大阪市平均より3.2%多い結果で、粘り強く取り組むことにも課題が見られた。児童質問紙の「算数は好きですか」は、最も肯定的な好きが30.9%と、大阪市平均より下回っている。

●取組の成果と課題／

- [国語]「話すこと・聞くこと」では大きな課題が見られた。今後は、目的に合わせて資料を読む力や必要な情報を的確に取り出す力などの「分析的な読み力」の育成を図るとともに交流を大切にしたい学習を進めていきたい。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」に関しては、大阪市平均レベルまで力をつけてきている。
- [算数]4領域すべてが大阪市平均を下回った。特に「図形」領域では、平均正答率が大阪市平均を15.3%下回る結果であった。「数と計算」「数量関係」領域については大阪市平均を下回るものの学校全体で「ドリルタイム」(計算力の定着をめざす時間)を設定し、四則計算等の習得に取り組んでいる成果は見受けられる。今後も既習事項の確実な定着をめざす取組を続けていきたい。「記述式」問題の無解答率が高く、「自分の考えをまとめ書き表すこと」の弱さが課題となっていることが分かる。家庭学習等でも新聞記事の感想を書いたり、要点をまとめたりと書き表す習慣を身につけさせる取組を行っていきたい。

R5年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点 (点)
男子	17.81	16.00	28.13	33.07	41.21	9.57	157.33	21.35	49.46
女子	17.28	15.65	31.43	33.97	30.00	9.79	157.77	14.44	51.52

●結果と概要

○ 男子では、「握力」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」で全国・大阪市平均を上回った。それ以外の種目では大きく平均を下回る結果となった。特に、「20mシャトルラン」「長座体前屈」は平均を大きく下回った。筋力面や敏捷性が高まっているものの、持久力、柔軟性に課題が見られた。

○ 女子も同様に、「握力」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」で全国・大阪市平均を上回った。さらに、「20mシャトルラン」「長座体前屈」で大きく平均を下回る結果となったのは男子の結果と共通している。持久力、柔軟性に課題が見られた。

●取組の成果と課題

【成果】 運営に関する計画の中の施策の一つである「健康や体力を保持増進する力の育成」を図るため、「教科体育や外遊びを通して、運動の日常化を図り、児童の体力向上をめざす。」ことに取り組んできた。体育科の学習を充実させることはもちろん、休み時間の運動遊びも充実させることで、運動の日常化につなげ、児童の体力向上をめざしてきた。また、「ダンスタイム」を設定し、定期的に外に出て体を動かすという目標をもって取り組むようにしたことで、自らすすんで取り組む児童が多く見られた。

【課題】 課題に挙げた体力要素については、運動意欲の向上や運動に親しむ環境づくり、運動の日常化、教科体育の指導の充実によって、改善を図りたい。今ある学校の遊具、器具、教具を有効に活用し、児童が休み時間や放課後に積極的に体を動かそうと思える運動遊びの提案を行っていきたい。また、教科体育における学習内容と指導の充実も必要である。1単位時間の中で、運動量の確保、学習課題の明確化、毎時間のふり返り活動の3点を取り入れた学習を展開していきたい。そして、目標をスモールステップで設定し、一つ一つクリアしていくことによって、がんばりを認め合える雰囲気醸成し、児童の運動意欲の向上につなげていきたい。

学校の特徴

学力向上の取組

- ☆6年間一貫した学習規律の徹底
- ☆ショートラーニング⇒計算・漢字の徹底した定着
- ☆校内研究(総合)⇒教員の授業力の向上(主体的・対話的・深い学びの実現)
- ☆家庭学習の手引き⇒家庭での学習習慣の確立
- ☆読書習慣の定着⇒読書ノートの活用、地域図書館の活用
- ☆学習熟度別授業(3～6年)⇒個に応じた指導の充実



ハッピーブックの活動



体力向上の取組

- ◇教科体育の充実・運動の日常化
- ◇体育的行事、取組の充実(「ダンスタイム」)
- ◇給食指導や栄養教育推進事業など、食育の推進
- ◇自分の健康状態に関心を持ち、行動する子どもの育成
- ◇場面に応じた正しい姿勢の実践



ダンスタイム



なわとびタイム



リレー大会



スキップジャンプ



かるた大会



多文化共生発表会



学習発表会
(隔年で実施)



作品展 (隔年で実施)



加美北スクールフェスティバル